

「村上チルドレン」「春樹セデ(世代)」一。村上春樹の小説は数十カ国で翻訳され、東南アジアや韓国では、村上春樹の影響を受けた作家群も生み出されている。この現象は、かつて川端康成や三島由紀夫らが、芸者や侍などの西洋がイメージする日本の表象を描くことで世界に受け入れられたことと全く異なる。ブランドの洋服、パー、音楽、旅行など都市文化の消費スタイルがふんだんに登場する村上春樹の小説は、それ自身が一つのブランドと化し、大衆消費社会の普遍化の波に乗った。「ハルキ」は今、グローバルな規模で消費されているのだ。

『ノルウェイの森』や150を超える楽曲が引用される『ダンス・ダンス・ダンス』が、爆発的ベストセラーになった事実は、活字離れが心配されるような、ポップミュージックに夢中な層にまでこの小説が届いたことを意味する。なかでも『ノルウェイの森』で、タイトルともなったビートルズの音楽は、あらゆる世代、もっといえば国境さ

えも無効化する共感覚を紡ぐ。

ただ、東南アジア地域で村上春樹が高い人気を獲得することにより日本のナショナル・アイデンティティーが高められるのとは対照的に、アメリカでの人気は村上春樹が日本人作家としてではなく、アメリカ文壇における作家の一人としてとらえられることによって評価されている。

それは、日本のナショナル・プライドは、アメリカでの人気獲得なしでは満たされない、という重要な視角を与えてくれる。ここで浮上してくるのは、村上春樹が、高度資本主義社会と一緒に歩いてきた「アメリカ文化」、文学や映画、ポピュラーミュージックなどのサブ・カルチャーから非常に大きな影響を受けてきたという事実である。たとえば、第一作『風の歌を聴け』においてはピーチ・ボーイズの「カリフォルニア・ガールズ」が特権的な位置を占めている。つまり、日本にお

甲南女子大学 文学部講師 米村みゆき

ノルウェイの森 ① 村上春樹

『ノルウェイの森』上巻

けるアメリカン・カルチャーのイメージがあふれた村上春樹の文学が、アメリカ文化のグローバル化という波に乗っていると見る事ができる。

次に、日本国内の文化に対するインパクトに目を向けて

世界的に消費される「村上春樹」

みよう。村上春樹を基軸に据えたと、日本現代文化の理解に役立つからだ。まず村上春樹の小説の構造に着目すると、マンガやアニメなどと共有する部分があることに気づく。たとえば登場人物や内容に共通点のある『風の歌を聴け』『1973年のピンボール』『羊をめぐる冒険』の初期三



DVDアニメ「秒速5センチメートル」

部作を読むと、一つの年代記が浮かび上がる。

しかし村上春樹は『風の歌を聴け』のように作家の署名付き「あとがき」でさえも架空の作家を登場させるなど「偽の年代記」を紡いでいるのだ。「僕」を登場させることが私小説的な小説のリアリティを読者に保証せず、むしろ仮想現実につながるという事実は「ガンダム」「エヴァンゲリオン」といったアニメなどの虚構世界に整合性を与えて解説する謎解き本等、仮想現実を作り上げるオタク的な想像力とも通底する。

また、村上春樹の影響が深く感じられるアニメーション監督・新海誠の場合、遠くへ行ってしまった「彼女」との記憶をノスタルジックな美しい風景描写と走馬灯のような回想形式で「僕」が語る『秒速5センチメートル』の叙情性は『ノルウェイの森』の冒頭描写と共鳴し、『ほしのこ

え』『秒速』の描く成熟への痛みなどもまた『ノルウェイの森』とシンクロしている。

村上春樹のモチーフはジャンルを越えてさまざまな文化領域に影響を与えて継承されてゆくのだから。

よねむら・みゆき 名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。専門は日本近現代文学、アニメーション文化論。平成14年から現職。著書に『宮沢賢治を創った男たち』（青弓社）、『＜介護小説＞の風景―高齢社会と文学』（編著、森活社）など。



多ジャンルの文化領域に影響